

伊藤（池田）直樹論文内容の要旨

主 論 文

Reliability and validity of the short version of the Dental Anxiety Inventory (S-DAI) in a Japanese population

(日本における the short version of the Dental Anxiety Inventory (S-DAI)の信頼性・妥当性検定)

著者名；池田 直樹、 鮎瀬 卓郎

ACTA MEDICA NAGASAKIENSIA 58 巻で 2013 年 10 月に掲載予定
原稿枚数 19 枚

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻
(主任指導教員：鮎瀬 卓郎教授)

緒 言

歯科疾患と全身疾患の関連性は近年多数報告されている。しかし、人口の 3-7%存在するといわれる歯科治療恐怖症患者は、歯科治療に対し消極的であるために、様々な不利益を自ら被ることとなる。このことより、歯科治療に対する恐怖心のスクリーニング検査となる自記式の質問紙は、歯科治療恐怖症患者を抽出し、よりきめ細かい対応につなげる上で重要な役割を果たす。この研究の目的は、歯科治療に対する恐怖心の度合いを調査する自記式質問紙である the short version of the Dental Anxiety Inventory (S-DAI)の日本語版の、信頼性と妥当性を確認することである。現在唯一日本語版の確立された、大人を対象とした歯科治療恐怖症試験紙である Dental Fear Scale (DFS)と比較して S-DAI は、質問項目数が半分以下であり、簡便に使用することが出来る。

対象と方法

一般歯科開業医の来院者を対象に、無記名で調査をおこなった。原著者に許可を得た上で、我々で日本語版 S-DAI の翻訳・作成を行った。研究参加者は、年齢、性別、日本語版 S-DAI と、既に日本語版の信頼性と妥当性が確立されている Dental Fear Scale (DFS)に回答した。

結 果

185人が回答し、質問に対して全て回答した有効回答者は167人（有効回答率90.3%）であった。性別では、女性104人（62.3%）、男性63人（37.7%）であった。平均年齢は48.8歳（SD:標準偏差16.4、13-80歳）で、年齢層に大きな偏りはなかった。S-DAIは平均18.5点（SD=8.1、9点から45点まで）であり、S-DAI値は女性が男性よりも有意に高かった（ $p<0.01$ ）。S-DAI値には年齢による有意差はなかった。S-DAIのCronbach's α は0.908であった。因子分析により固有値が1以上の1つの因子が抽出された。S-DAIとDFSは高い相関を示した（ $r=0.812$ 、 $p<0.001$ ）。

考 察

日本語版S-DAIは、質問紙として、オリジナルのものと同様の内部整合性が確認された。また、これもオリジナル版同様、因子分析から1つの因子が抽出され、この質問紙が歯科治療に対する恐怖心という1つの因子を抽出出来ることが確認されたといえる。我々の研究において、年齢でのS-DAI値の有意差はなかった。これは、他の報告と同様であり、歯科治療に対する恐怖心は実際に何かを経験したか否かが問題であることの証拠であるといえる。S-DAI値は女性のほうが有意に高かったが、これも多くの先行研究で同様の結果となっている。DFSとS-DAIの日本語版を比較しても、内部整合性と基準関連妥当性に問題はなかった。

この研究の限界としては、1医院における研究であるため、地域差の影響は否めないことがある。また、男女比の違いの問題もあるが、日本における歯科医院受診率は男性よりも女性のほうが統計的に高いため、こちらも今回の調査方法における限界といえる。

将来的には歯科治療恐怖症患者群と一般群とに分けた信頼性・妥当性検定が望ましいが、歯科治療恐怖症患者群の正確な規定は精神科的観点からも難しいため、これは今後の課題である。

結 論

歯科治療に対する恐怖心を測定する日本語版S-DAIを作成し、信頼性・妥当性検定を行い、この質問紙が日本語でも十分に機能することを確認できた。

（備考）※日本語に限る。2000字以内で記述。A4版。